

伊勢湾台風「くつ塚」

伊勢湾台風から 57 年が経つ。いまでも忘れもしない 1959 年 9 月 26 日の土曜日夜だ。「わがこと」として集中して本を読み、被災地を訪ねることにした。前から気になっていた南区の「くつ塚」にも行ってみたい。

地図で調べて、とにかく金山から JR 東海道線で笠寺まで行き、そこから南の方に向けて歩いた。途中、市営住宅 8 階まで上がり、笠寺一体を上から眺めた。『海吠える』にも出てくる南光中学にたどりつく。この中学に多くの人がめざしたが、途中で荒波にのまれ、亡くなったという。

道行く人にたずねて、なんとか浜田南公園にたどりついた。道路沿いの小さな公園であった。ここが「くつ塚」と呼ばれたところだ。「くつ」はなかったが、「慰霊之碑」があった。

このあたりは避難中の人に高潮が襲いかかり、数多くの犠牲者を出した。台風が去り 10 日ほど過ぎて水が引き出した頃、遺体とともに雨靴がころがっていた。それらの靴が集められ、いつしか「くつ塚」と呼ばれるようになった。その場所に、「慰霊之碑」が建立されたのが、いまの浜田南公園。

「慰霊之碑」の裏側に、碑文と殉難者氏名が書かれている。裏側には木がしげり猫もいた。手を伸ばして写真を撮ったが、うまく映らない。写真からなんとか読みとった碑文を書いておきたい。



碑文

激しい風と雨、胸までつかる水、その中で進退きわまった人々の悲しく叫びつづける声が、闇の空にむなしくかき消されてゆくばかりでした。碑の正面に見える路上で 500 を超える人の群れが、必死に励まし頑張り、祈りつづけたのですが、無情の高潮は遂に 280 に近い人命を一時に呑み込んでしまったのです。水が退いてこの付近一帯からひろい上げられた遺品の雨靴が、道路わきに山と積まれ又人々の新しい涙を誘うのでした。そこはいつのまにか、“くつ塚”と呼ばれ道行く人々までが花と線香と静かな祈りを捧げるところとなりました。その深い悲しみの場所に、市当局と全宝学区民の総意と努力により、更に又学区外の多くの人々の協力も得てこの碑が建立されました。今この碑の中に全学区の殉難者 307 柱の遺骨を安置してひたすら諸霊の冥福を祈ります。

昭和 35 年 4 月 26 日

(2016 年 9 月 25 日)